

## CONTENTS

|           |   |
|-----------|---|
| 巻頭言       | 1 |
| 総会特集      | 2 |
| 講演録       | 4 |
| TOPICS    | 6 |
| 10年のあゆみ   | 7 |
| 役員一覧・編集後記 | 8 |

# 21世紀の エネルギーを 考える会・みえ



## 巻頭言



会長 小菅 弘正

4月17日にホテルグリーンパーク津で、行いました平成18年度総会に多数ご参加をいただきありがとうございました。

皆さまのご協力により、各議案が満場一致で承認されましたことを、まづもってお礼申し上げます。また、平成8年の設立から長期にわたり、当

会の代表としてご尽力賜りました、堀木博会長に替わり、会長を勤めさせていただきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、昨今の経済情勢は、緩やかながら着実に回復の軌道をたどりつつあります。

しかし、原油価格における高値安定傾向の不安要素も見え隠れしており、このような状況が続くと日本経済に大きな影響を及ぼしかねません。

この背景には、中国やインドを始めとするアジアの急激な経済成長と人口増加による需要の増大や、将来のエネルギー需給が逼迫する懸念があるからと言われております。

また、近年では地球温暖化が国際問題としてクローズアップされ、この問題を解決するため、二酸化炭

素などの温室効果ガスの削減に向けた取り組みを行っていかねばなりません。

このことから、化石燃料を始めとしたエネルギー需給逼迫と地球温暖化防止の打開策として、新エネルギーや原子力の期待が高まっています。

当会は、新エネルギーと原子力、とりわけ当面の主要な柱である原子力に対する正しい理解を求めていく所存であります。

今後とも、エネルギー問題、地球環境問題に関する情報を発信し、当会の行動理念でもある「環境と調和したエネルギー源の確保」に向けた取り組みを行ってまいりますので、みなさまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



■ 会員に挨拶をする小菅弘正会長

## 総会特集

4月17日(月)「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」は平成18年度総会を津市羽所町のホテルグリーンパーク津伊勢の間で開催し、約300名の会員が参集しました。来賓に森本哲生衆議院議員や、田中覚三重県議会議長をはじめ26名の県議会議員のみなさま、本多隆経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部長を迎え、平成8年の発足から11年目となる総会を盛大に開催しました。

総会の冒頭、挨拶に立った小菅副会長は、『当会の活動も、平成8年に組織を発足して丸10年となりました。この間、県民の皆様のご支持をいただくことができました。これもひとえに会員の皆様方のご支援・ご協力の賜物と重ねて厚くお礼申し上げます。』

最近、太陽光や風力など新エネルギーの普及開発が話題になっておりますが、将来のエネルギー消費量を確保できるまでには至っていません。エネルギー資源の少ない我が国は、将来の安定したエネルギーを確保するということが、重要な問題であります。

また、地球温暖化が国際問題としてクローズアップされ、この問題を解決するため、二酸化炭素などの温室効果ガス削減に向け、国や企業を始めとし、私たちひとり一人がこの課題達成に向け様々な取り組みを行っていかねばなりません。

このような状況の中、二酸化炭素の排出源である化石燃料の使用を減らすことはもとより、これに代わる新エネルギーや原子力発電の積極的な導入を図っていかねばなりません。

我々は今まで以上に「環境と調和したエネルギー源の確保」を訴えていくとともに、この三重の地から、新エネルギーや原子力の情報発信に取り組み、理解を深めていく所存であります。』と述べました。

ご来賓を代表し、本多隆経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部長は、『日本で消費されるエネルギーの8割以上は、輸入の化石燃料に依存していますが、エネルギーの需要は年々増大しており、原油価格が史上最高値となるなど、世界的にエネルギーの需給が逼迫している現状です。』

昨年、京都議定書が発効したのに伴い、経済産業省では、「新国家エネルギー戦略」中で、エネルギーの安全保障の確立、エネルギー問題と環境問題の一体的な解決による持続可能な成長基盤の確立、アジアを含む世界のエネルギー自給問題克服への積極的な貢献の3点を目標として掲げています。中でも原子力発電は二酸化炭素排出がなく、その必要性について、各地域ごとの広報対策の充実などに力を入れて、理解を得ていくつもりです。

また、昨年改正された「省エネルギー法」が4月から施行されました。省エネルギーのみならず、太陽光、風力などの新エネルギーの推進に向けて、効果的・効率的な支援策を進めていく予定です。

「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」におかれましては、平成8年の設立以来、環境と調和したエネルギーの確保とその利用に向けた様々な活動を進めておられ、エネルギー行政に携わる者としても、心強く、敬意を表します。』とあいさつされました。

続いて、田中覚三重県議会議長からは、『平成18年度の総会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。』

三重県議会議長では、昨年9月に「三重県の地域産業振興条例」を議員発議で作りました。地域の代表である県議会議員の政策合わせによって、地域の産業を磨き、光り輝かせることによって三重県全体が良くなることを目指した条例です。エネルギーがその地域産業にどう影響を及ぼすのか十分に議論をし、考える会の皆様方との政策懇談会等も開かせていただければと考えています。



■ 来賓代表 本多隆経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部長

三重県はエネルギーの輸出県であると考えています。しかし、リサイクルや産業廃棄物、環境問題などは、愛知県・和歌山県等の隣接県との連携・協力によって解決すべき課題・問題がたくさんあると思います。エネルギーに関しても、道州制という見方では、他のブロックから電力を輸入しています。自立した地域社会の創造に向けて、地域の今後の発展のあり方、地域間の連携・協力を模索することは、私達に与えられた大きな使命だと感じています。

10年の節目を迎えられ、本総会を契機に一層団結いただき、さらに情報交換を盛んにしまして、新しいエネルギーがあるべき方向に向かうことを心から祈念いたします。』とあいさつされました。

総会では、新会長として小菅弘正副会長が選任され、平成18年度の事業計画などの審議が行われ、満場一致で承認されました。また、本会の行動理念である「環境と調和したエネルギー源の確保」に向けて、全県民的な議論の興隆を目指し、新エネルギーや原子力に対する理解促進を求めるなどを内容とした声明書が、榎田副会長より読み上げられ、この声明書が満場一致で承認されました。

総会終了後は、理学博士鈴鹿短期大学学長の佐治晴夫氏による「壮大なエネルギー循環から人間を考える ～宇宙の“ひとかけら”としてどう生きるか～」と題した記念講演が行われ、会場に詰めかけた会員たちも熱心に聞き入っていました。

(講演内容は、P4～P5に掲載)

## 平成18年度事業計画

### 1.基本方針

平成18年度は、「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」(以下「考える会」とする。)の会員に対するエネルギー知識の更なる習得および情報発信を目的に各種事業を積極的に実施する。

また、「考える会」の活動理念である環境問題とエネルギー問題の調和ある解決に向けた全県民運動展開のための情報発信および入会勧誘活動も継続して実施する。

### 2.活動計画

#### (1)会員に対する知識習得策

##### ①講演会開催

環境問題およびエネルギーに関する正しい理解と会員相互の連携を深めるため、関係諸団体と連携しエネルギー講演会を開催する。

##### ②見学会開催

エネルギー問題に対する理解を深めるため、会員を対象としたエネルギー関連施設の見学会を開催する。

##### ③会報誌発行(上期/下期 年2回)

環境とエネルギーに関する情報を掲載した会報誌を作成し配布する。

##### ④広告掲載・協賛

各種団体の大会誌を通じてエネルギー、環境問題に対する広告を掲載する。

#### (2)会員の拡大

講演会、見学会等を通じて、新規会員勧誘活動を継続実施する。

#### (3)要望・陳情活動の実施

環境に優しいエネルギー源の確保に向け、関係方面への要望・陳情活動を実施する。



■ 平成18年度総会風景

## 声明書

私たち「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」は本日ここに、平成18年度の総会を開催し、会員の総意において、本会設立の趣旨である「環境と調和したエネルギー源の確保」に向けて、全県民的な議論の興隆を目指し活動することを確認しました。

われわれの生活に欠くことのできないエネルギーの多くは、化石燃料をエネルギー源として確実に消費されております。加えて、アジア諸国における経済発展が急速に進む中で、経済活動に伴うエネルギー消費の増加、とりわけ石油を始めとした化石燃料の消費急増により、価格が高騰するばかりではなく、地球温暖化にも多大な影響を与えております。

こうしたなか、地球温暖化防止のための「京都議定書」が昨年2月に発効し、わが国に課せられた温室効果ガスの削減目標「1990年比で6%」が国際公約となっております。

我々は、このような状況下において、エネルギー源として化石燃料の使用を減らすことはもとより、これに代わるエネルギーの積極的な導入を図っていかねばなりません。

三重県におかれましては「三重県新エネルギービジョン」を策定し、これに沿って、太陽光、風力、バイオマスなどによる発電の導入に積極的に取り組んでおられます。

しかしながら、新エネルギーの現状は、出力の不安定性や高コスト等の課題を抱えており、更なる技術開発の進展が待たれます。

昨年の10月に国が策定した「原子力政策大綱」では、資源の少ないわが国のエネルギー事情と、地球温暖化に歯止めをかけるためには、引き続き原子力発電を基幹電源に据えることが妥当だとしています。

そして、原子力発電は、発電過程において二酸化炭素を排出しないことや、発電を終えた後の使用済み燃料が再利用できることなどが評価され、2030年以後も総発電電力量の30%から40%程度以上の供給割合を原子力発電が担うことを目指すとしています。

「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」は、平成8年の設立以来、今年で10周年を迎えました。本会は、これまで県域の均衡ある発展をも視野に入れ、県民の皆さまからご支持



■ 声明書を読み上げる榎田安良副会長

をいただき、環境と調和したエネルギー源の確保に向けた、全県民的な議論の興隆を目指し活動してまいりました。

10周年という節目の年にあたりまして、本会では、なお一層の強い使命感に立ち、会員の総意により三重の地からエネルギー・環境問題に関する情報を発信し、原子力と新エネルギー、とりわけ当面の主要な柱である原子力に対する正しい理解を求めていくことを決意するものであります。

私たち「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」は、民間の立場でエネルギー・環境問題に取り組んでおりますが、これらの活動の実現には官民一体となった取り組みが不可欠であり、将来を担う子供の教育を始め、国民に正確な情報を提供するための取り組みの強化が、国および地方自治体の責務と考えます。行政・政治の立場から直接・間接的な取り組みと、ご指導・ご支援をいただきたく、次の三項目について三重県知事ならびに三重県議会に要望するものであります。

## 記

- 1. エネルギーと環境問題に関する県民への積極的な情報の提供
- 1. 温室効果ガス削減に有効な、原子力発電・新エネルギーの推進
- 1. エネルギーと環境問題に関する次世代層教育の充実

以上、声明いたします。

平成18年4月17日

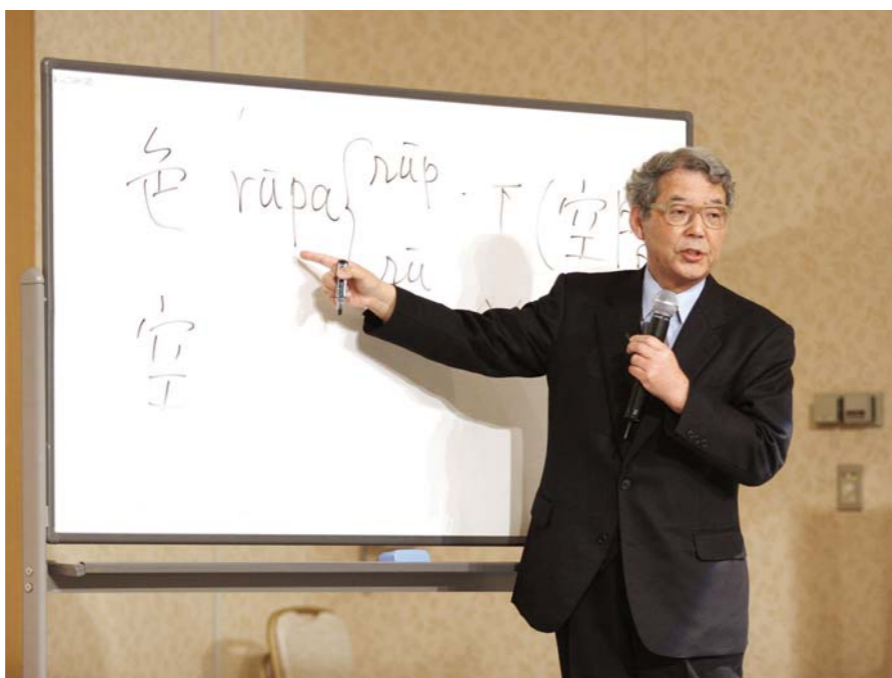
「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」

# 「 壮大なエネルギー循環から人間を考える — 宇宙の“ひとかけら”としてどう生きるか— 」 佐治晴夫氏を迎えて。

[ NHK制作によるハリウッド映画“コンタクト”のプロモーションビデオを講演者のプロフィール紹介として上映 ]

中国の古い文献：“淮南子”によれば、“宇”は「四方上下」、つまり、空間、“宙”は「往古来今」、時間のことである、と書かれています。宇宙とは、空間と時間の総称です。考えてみれば、生きている私たちは、自分の体という体積で空間を占有し、過去から未来への時間を食べながら旅を続けているようなものですから、私たち自身は、宇宙そのものである、といっても、間違いにはなりません。

ところで、最新の宇宙論によれば、私たちの宇宙は、今から、137億年の遠い昔、“量子論的な無”としかいいようのないところから、限りなく熱く、まばゆいひとつぶの光として、さりげなく、しかも爆発するかのように生まれたとされています。そして、膨脹を続けながら宇宙は温度を下げ、光のしずくは宇宙の霧となり、その中から星が生まれます。星は、水素をヘリウムに変えるというような核融合反応で、光り輝いていますが、燃料が枯渇してくると、外層がふくらんで、再び宇宙の霧になったり、もし、その星が重いと、自分の体重を支えきれなくなって、一挙に収縮し、中心には中性子星やブラックホールが形成されますが、星の大半の部分は、超新星爆発というかたちで、宇宙空間に、まき散らされます。そこから、再び、新しい星が誕生します。じつは、“すばる”のように青白く光り輝く星になる前



■ 記念講演で、熱弁される佐治氏

段階の赤ちゃん星は、オリオン座の星雲M42の中に見ることができます。生まれて400万年くらいの星たちです。

このように、星にも誕生と終焉があり、私たちのいのちを造る材料は、すべて、星の中で合成され、大爆発という星の終焉によって、宇宙空間にまき散らされた星のかけらから、太陽が生まれ、地球が生まれ、そして、私たちが誕生したのですから、私たちは、みんな“星のかけら”から生まれたといえます。宇宙の壮大な物質循環のプロセスとしての“いのち”の存在です。

さて、星が、輝いていられるのは、自分の体重でつぶれようとする力と、中心部で起こっている核融合反応で広がろうとする力が釣り合っているからです。そのバランスがくずれると、星は終焉を迎えます。また、宇宙の中に存在するプラスの電荷とマイナスの電荷の量は、ぴったり同じです。もし、どちらかの量が多いと、同じ電荷同士の反発力が原因となって、宇宙は壊れてしまいます。原子が集まって分子をつくる過程を考えてみても、引力と反発力がほどよくバランスすることによって、原子たちはほどよい距離を保ちながら結合し、分子を

形成しています。つまり、相反する性質が、仲良く共存することによって、すべての存在は成り立っています。宇宙をかたち造る根本原理です。

じつは、人間の世界でも、同じですね。明暗、上り下り、喜びと悲しみ、男性と女性、光と影、創造と破壊、見えるものと見えないもの、など、対極の性質が、たがいに、ワンセットになって、バランスをとりながら存在しています。生体の機能も、促進と抑制のバランスによってもたらされており、そのバランスの崩れが病気を引き起こします。神経系でも、たとえば、痛みを伝える機能と、それを抑える機能が、たがいに拮抗しながら、脳に信号を送っています。正しいものごとの判断も、対極の場面を統合することの中にあります。

こうして考えてみると、宇宙を知ること、宇宙のひとかけらとしての人間を知ることであり、さらには、人生への指針を求めるとなみであるともいえます。夜空の星を眺めること、それは、とりもなおさず、自分探しの旅のはじまりだということです。

では、私たちは、なぜ、戦うのでしょ

うか？それは、持続のために、強い遺伝子を残すための方策だともいえませんが、地上に存在する4200種あまりの哺乳類の中で、ヒトが唯一、未熟児の形で出産することとも関係がありそうです。つまり、牛や馬と違って、ヒトの子供は、生まれた直後は、自立できません。そのために、母親の介護が必要であり、それは、やがて、外敵に対して防護を固めるための集団を作ることに発展します。すると、それぞれの集団での価値判断の基準は、環境などで大きく違ってきますから、それらの違いが考え方のずれを生み、戦いへのきっかけになります。ここで、未熟児として出産することの理由は、ヒトは他の哺乳類と比べて、より進化した脳をもち、唯一、考えることができる哺乳類であることと関係します。ところが、進化した脳は大きく、しかも、きちんと頭蓋骨で保護しなければなりません。そうすると、出産時に母体を傷付ける可能性があり、そのために、変形しやすい未熟な状態で出産するというわけです。

そこで、集団間での価値観を互いに認め合うことが平和への第一歩に

なりますが、そのためには、“あなたあつてのわたし”、“たがいに関わり合う存在としての私たち”、という視点が必要でしょう。

実は、このような視点を論理のまなざしで、提供してくれるのが、宇宙の研究です。すべては、ひと粒の光から生まれ、たがいに相い補いながら存在しているということを論理で示してくれるからです。いいかえれば、壮大な宇宙的なエネルギー循環のプロセスの1ページとしての人間の存在です。それは、また、科学の論理に支えられた輪廻転生の物語でもあります。

宇宙研究の目的は、宇宙のからくりを知ることはありませんが、それを行っているのは、私たちの脳であり、脳による認識が、宇宙の存在を明らかにしているわけですから、宇宙研究とは、まさに、私自身とは、何か、という問いかけに対する研究であるといっても過言ではありません。

## PROFILE 佐治 晴夫 (さじ はるお)

1935年、東京生まれ。理学博士。東京大学物性研究所、県立宮城大学教授などを経て、2004年4月から鈴鹿短期大学学長。量子論的無の“ゆらぎ”からの宇宙創生の理論のほか、NASAのボイジャー計画や、E. T. (地球外知的生命) 探査にもかかわる。また、パイオルガン演奏や天文台で“真昼の星”の観望をまじえながらの宇宙論講義を行うなど、文系・理系の枠を超えて、平和教育として宇宙研究を位置付けるリベラルアーツ教育の実践でも知られる。

■ 主要著書：「宇宙の不思議」、「宇宙はすべてを教えてくれる」(PHP研究所)、「20世紀の忘れもの」(雲母書房)、「宇宙の風に聴く」(セルフラーニング研究所)、「宇宙が教えてくれること」(文溪堂)、「わかることはかわること」(河出書房新社)、「金子みすゞを旅する」(JULIA出版)、「星へのプレリュード」(MOKU出版)、「おそらにはあるの」、「夢みる科学」(玉川大学出版部)など著書多数。

現在、毎日新聞、毎週水曜日に“佐治博士の不思議な世界”を好評連載中。



## 三重県知事、 県議会議長に要望書を提出



■ 三重県知事の代理で要望書を受け取る松井政策官

6月7日、「考える会」の小菅弘正会長、中村信夫事務局長は三重県庁を訪れ、4月17日に開催された同会の平成18年度総会の報告を行うとともに、原子力に対する客観的評価と県民の理解促進を求める要望書を政策部長へ提出しました。

要望書は、平成18年度総会で採択された「声明書」に沿うもので、①エネルギーと環境問題に関する県民への積極的な情報の提供、②温室効果ガス削減に有効な、原子力発電・新エネルギーの推進、③エネルギーと環境問題に関する次世代層教育の充実の3項目について、県の積極的な取り組みを求めています。

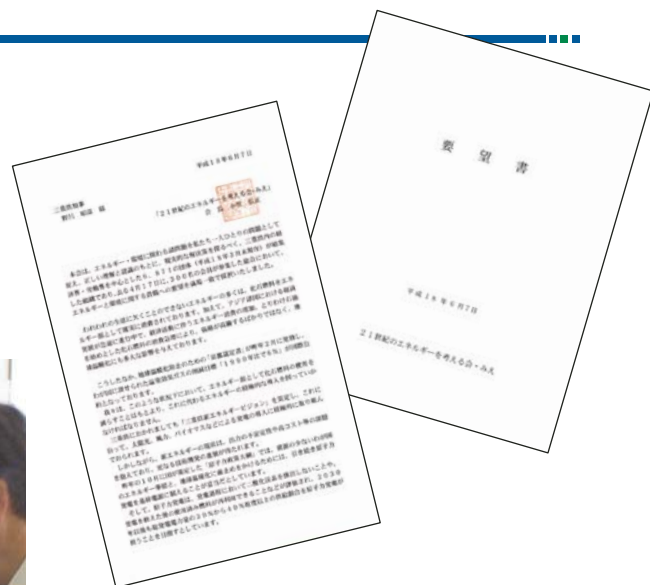
当日、要望書を受け取った松井政策官は「県としては、新エネルギーについて幅広く県民に情報提供していきたい」と話されました。

同日、同内容の要望書を就任早々の藤田正美県議会議長、萩野虔一県議会副議長にも提出しました。藤田議長は、「エネルギー全般が安全安心に提供できるように、本当の情報を共有していく必要があります。また、環境に配慮した新エネルギーの開発も検討していくべきで、それを地域の活性化にも結び付けたい」と述べられました。

また、6月中旬から下旬にかけて、県内29市町の首長・議長にも同文写を提出し、理解を求めました。



■ 要望書を受け取る藤田議長、萩野副議長



### 原発など推進求める 21世紀のエネルギーを考える会 県と県議会に要望書提出

「21世紀のエネルギーを考  
える会・みえ」(小菅弘正会  
長は七百、県庁と県議会議  
事堂を訪れ、野呂昭彦知事と、  
藤田正美県議会議長あての、  
原子力発電・新エネルギーの  
推進などを求める要望  
書を提出した。  
要望は、四月十七日  
に開いた本年度総会  
で採択した「声明書」に  
沿ったもので、エネル  
ギーと環境問題に関す  
る県民への積極的な情  
報の提供▽温室効果ガ  
ス削減に有効な原子力  
発電・新エネルギーの  
推進▽エネルギーと環  
境問題に関する次世代  
層教育の充実の三  
点。  
小菅会長は「新エネル  
ギーには風力などもあるが、安定  
性の面では原子力発電。県民  
の理解を得るために、啓蒙活  
動をしていきたい」と話した。  
県政策部は「太陽光やバイ  
オマスを含め、新エネルギー  
全体の情報提供をしていき  
たい」とし、藤田議長は「原油  
価格が高騰している。エネル  
ギーを安全安心に提供して  
いかなければならない。本当  
の情報を提供し合うことが必  
要。新エネルギーは総合的に  
しっかり検討すべき」と述べ  
た。

「21世紀のエネルギーを考  
える会・みえ」(小菅弘正会  
長は七百、県庁と県議会議  
事堂を訪れ、野呂昭彦知事と、  
藤田正美県議会議長あての、  
原子力発電・新エネルギーの  
推進などを求める要望  
書を提出した。  
要望は、四月十七日  
に開いた本年度総会  
で採択した「声明書」に  
沿ったもので、エネル  
ギーと環境問題に関す  
る県民への積極的な情  
報の提供▽温室効果ガ  
ス削減に有効な原子力  
発電・新エネルギーの  
推進▽エネルギーと環  
境問題に関する次世代  
層教育の充実の三  
点。  
小菅会長は「新エネル  
ギーには風力などもあるが、安定  
性の面では原子力発電。県民  
の理解を得るために、啓蒙活  
動をしていきたい」と話した。  
県政策部は「太陽光やバイ  
オマスを含め、新エネルギー  
全体の情報提供をしていき  
たい」とし、藤田議長は「原油  
価格が高騰している。エネル  
ギーを安全安心に提供して  
いかなければならない。本当  
の情報を提供し合うことが必  
要。新エネルギーは総合的に  
しっかり検討すべき」と述べ  
た。

■ 6月8日付 伊勢新聞より抜粋



■ 盛大に開催された設立総会

「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」は、平成8年4月13日の発足から10年を迎えました。現在は約7000団体の会員を数えます。「考える会」は、環境問題とエネルギー問題の調和ある解決を理念として、発足以来、年1回の総会をはじめ、三重県知事・三重県議会へエネルギー問題に関する要望書を提出、エネルギー講演会、発電所見学会開催等、幅広く活動しています。また、年2回会報誌を発行し、県民に対しての情報発信も行っています。

| 西暦    | 海外・国内・県内の動き   | 21世紀のエネルギーを考える会・みえ                        |
|-------|---|---|
| 1996年 |   | 4月13日発足 初代会長に堀木博氏<br>設立総会では約2,000人の参加     |
| 1997年 | 12月 京都会議で「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」採択                       | 県内の主要駅へのポスター掲示、<br>街頭チラシ配布、各地で講演会、見学会等を実施 |
| 1999年 | 5月 久居市(現津市)が建設した久居榊原風力発電施設が稼動(4基)                         | 個人を対象にした会員勧誘活動を展開                         |
| 2000年 | 2月 芦浜原子力発電所計画が白紙となる<br>12月 青山高原ウインドファーム設立、青山高原に風力発電20基が稼動 | 講演会、見学会に加え県内の各地区において会員大会を開催               |
| 2001年 | 9月 アメリカ・同時多発テロ事件発生  |   |
| 2003年 | 3月 イラク戦争勃発<br>8月 アメリカ・カナダ大停電発生                            |   |
| 2004年 | 7月 「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録<br>9月 台風21号による豪雨被害が県内各地で相次ぐ      |   |
| 2005年 | 2月 京都議定書発効温室効果ガス6%削減が目標に<br>3月～9月 自然の叡智をテーマにした愛・地球博開催     |   |
| 2006年 | 2月 ウインドパーク美里設立、風力発電が8基設置<br>青山高原の風力発電は、合計32基となる           | 平成18年度の総会において、小菅弘正氏が会長に就任                 |



■ 青山高原の風力発電施設



■ 年1回行われる総会

# 役員一覧・編集後記

## 21世紀のエネルギーを考える会・みえ 役員名簿(順不同)

平成18年7月20日現在

### ■ 会長

四日市商工会議所会頭 小菅 弘正  
(三重県商工会議所連合会 副会長)

### ■ 副会長

三重県商工会連合会会長 藤田 幸英  
三重県中小企業団体中央会会長 廣瀬 哲司  
三重県経営者協会会長 奥田 卓廣  
三重友愛連絡会議長 浅利 武男  
エネルギー問題三重県研究会代表世話人 榎田 安良

### ■ 理事

三重県商工会議所連合会会長 田村 憲司  
三重県商工会議所連合会副会長 濱田 益嗣  
同 青田良太郎  
同 大泉 源之  
同 長田 幸夫  
同 森岡 益  
四日市商工会議所専務理事 北川 利美  
三重県商工会連合会副会長 伊藤 律雄  
同 宮本 光雄  
同 川合 文郎  
同 中嶋 勉  
同 中野 公郎  
三重県中小企業団体中央会副会長 佐久間裕之  
同 竹尾 博光  
同 三林 憲忠  
同 中川千恵子  
三重県経営者協会副会長 菊川 靖之  
同 小林 長久  
同 久保 幸夫

三重県経営者協会副会長 戸澤 周純  
同 黒川 正機

電機連三重地方協議会副議長 土岐 章  
自動車連三重地方協議会議長 芦谷 満弥  
UIゼンセン同盟三重県支部議長 白畑 邦男  
JEC連三重地方連絡会副議長 大西 幸延  
日産労連三重地方協議会議長 鈴木 隆夫  
全郵政東海地方本部執行委員長 大塩 弘之  
三重一般同盟書記長 堀 博敏  
交通労連中部地方総支部三重県支部支部長 宮崎三代橋  
基幹労連三重県本部事務局長 西山 栄樹  
電力総連三重県電力総連会長 土森 弘和  
日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会会長 瀬戸 孝仁  
三重県地域婦人会連絡協議会会長 大川 妙子  
三重県新生活運動推進協議会会長 伊藤 幸子  
三重県医師会会長 中嶋 寛  
社団法人三重県観光連盟会長 藤井 賢三  
社団法人三重県建設業協会会長 田村 憲司  
社団法人三重県建築士会会長 奥井 明男  
三重県商店街振興組合連合会理事長 鯉江 盈  
三重県電器商業組合理事長 渡邊 一雄  
三重県電気工事業工業組合理事長 楠 修次  
都市環境ゼミナール会長 伊藤 達雄

### ■ 監事

三重県商工会議所連合会監事 中村 幸昭  
全郵政東海地方本部副執行委員長 南條 隆

### COVER Photo



### オチョボ岩から 引本方面を臨む

オチョボ岩は尾鷲市と紀北町にまたがる天狗倉山頂から東へ約40分ほど歩くとたどりつく大きな岩。このオチョボ岩(494m)からの眺望は最高で、360°の景観が楽しめる。特に紀北町側は海に突き出ているように見え、他では見られない絶景となっている。

## 編集後記



事務局長  
中村 信夫

本会が発足以来10年に亘り、諸活動を行い、本会の設立趣旨である「環境と調和したエネルギー源の確保」に向けた目標が少しでも達成できたのではないかと思います。

この間、ご協力いただきました会員の皆様に対し、心から御礼申し上げます。

昨年の暮れは、例年になく寒さが厳しく、各地で豪雪に見舞われました。この厳しい寒さと豪雪は地球温暖化の影響と言え驚かれる

方も多いと思います。

地球温暖化により猛暑や暖冬になると思いがちですが、一概にそうとも限りません。地球温暖化は、地球全体における大気の循環や海流などの変動を招き、気象変動が起こりやすくなるのです。地域によっては、冷夏や厳寒も有り得るわけです。

この深刻化する地球温暖化を防ぐには二酸化炭素を排出しない、原子力発電の有効利用や新エネルギーの開発、推進をしなければならぬと考えます。

次代を担う子供や孫に好い地球環境を残してやるうではありませんか。

今後も、引続き情報を発信してまいりますので一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

### シンボルマーク



「みえ」のイニシャル「M」と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな「M」で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

### お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004  
津市栄町3丁目248番地  
きりんセカンドビル302号  
TEL&FAX(059)229-3790